

令和3年度
事業計画・予算

(目次)

1	令和3年度の概観	1
2	事業計画の重点項目	2
3	各学校の事業計画	2
	(1) 盛岡大学	
	(2) 盛岡大学短期大学部	
	(3) 盛岡大学附属高等学校	
	(4) 盛岡大学附属厨川幼稚園	
	(5) 盛岡大学附属松園幼稚園	
4	予算編成	7

学校法人盛岡大学

令和3年3月23日

1 令和3年度の概観

本法人は、「基督教の『愛と奉仕の精神』をもって地域社会の福祉に貢献する有為な人材を育成すること」を建学の精神に掲げ、教育研究活動に努めて参りました。令和3年度は、法人創立70周年及び盛岡大学創立40周年の記念すべき年度であります。財源の確保に努めるとともに事業計画の着実な実行に努め、建学の精神に基づくガバナンスコード及び中期計画の実現・実践に努めなければなりません。

大学法人を巡る経営環境は、少子化の加速や新型コロナウイルス禍など、社会経済情勢の著しい変化の中にあり、法人経営の厳しさが一層増してきており、このような時期をどう乗り越えて発展につなげるか、課題が山積しております。また、私立学校法等の改正は、学校法人の責務の新設、役員の職務及び責任の明確化、情報公開の充実など、ガバナンスの強化と教育の質の向上を図ることを目的として改正されました。質の高い教育研究活動の継続のためには、安定した経営基盤の維持はもとより、法人事務組織と教学事務組織との連携と協力による法人の円滑な運営が大切であります。

予算の編成に当たっては、中期計画に掲げた各重点項目の計画的な推進と教育環境の向上充実を図る施策が必要であります。特に、創立70周年記念事業の実施、盛岡大学附属幼保連携型認定こども園（仮称）整備事業の着手、各施設の経年劣化に伴う補修・更新に努めるなど、緊急性・必要性を視点を置き、「選択と集中」を基本に、最小の経費で最大の効果が得られるよう緻密な予算編成に努める必要があります。

収入については、志願者の減少に伴う短期大学部の定員の見直しなどにより、学生生徒等納付金収入は、非常に厳しい状況にありますが、引き続き定員の充足を図り納付金収入の確保に努め、補助金・寄付金・資産運用等、財源の安定的な確保に努める必要があります。

支出については、中期計画の施設計画に組入れた事業、教育研究活動の充実向上を図る事業、さらに学生・生徒、教職員等の健康・安全を最優先とした新型コロナウイルス感染症対策に引き続き取組むほか、当初予算に計画されたもの以外の予算執行は原則として認めないこと、漸増傾向にある人件費の動向に留意し、収入規模に見合う適切な支出規模の維持に努める必要があります。

学校法人を取り巻く厳しい経営環境の中にあって、安定した経営のためには、業務の見直し改善、組織運営の効率化、職員配置の適正化を図るほか、計画的な基本金への繰入、基本金繰入前当年度収支差額が収入超過になるよう努める必要があります。

予算の編成に当たり、経営基盤の強化及び本法人の建学の精神並びに教育の理念の実現に向けて引き続き努力し社会的使命を果たすとともに、本学の学生・生徒、ステークホルダーからの信頼・期待に応え、さらに高い評価が得られるよう努力して参ります。

予算の執行に当たり、現状を十分理解されご協力頂きますようお願い致します。

2 事業計画の重点項目

令和3年度の事業計画は、現在取り進めている「学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」をベースに、教育環境の変化や、新型コロナウイルス感染症への対応など、必要に応じて見直しを図りながら、4つの基本事項と8つの重点項目を明確にして取り進めて行きます。

少子化が一層進行する中、各学校とも学生・生徒・園児募集体制の強化を図り、

入学定員確保につとめ、それぞれの教育目標（理念）に基づき活発な教育・研究活動を展開していきます。

〔基本事項〕

- 1 教育研究活動の改善及び質の向上
- 2 業務運営の効率化を目的とした事務組織・人事体制の見直し
- 3 施設設備整備計画による環境の整備
- 4 財務内容の改善による経営基盤の強化

〔重点項目〕

- 1 教育研究活動の改善及び質の向上を図る。
- 2 組織運営、管理体制を整備し、ガバナンス機能の改善・強化を図る。
- 3 人事体制の整備を進め適正化を図る。
- 4 施設設備の整備を進め、教育研究環境の充実を図る。
- 5 財政基盤の安定化を図る。
- 6 設置校の将来構想について検討する。
- 7 法人内の各学校間の連携を強化する。
- 8 法人及び盛岡大学の周年事業を実施する。

3 各学校の事業計画

〈盛岡大学〉

（1）建学の精神に基づく人間育成力

- ①DP（ディプロマ・ポリシー）・CP（カリキュラム・ポリシー）・AP（アドミッション・ポリシー）の見直しを行う。
- ②高大接続改革に取り組む。

（2）定員充足力

- ①学部・学科の特長の明確化を図る。
- ②入学者確保の戦略を構築する。
- ③定員の適正化の検討を進める。
- ④学生募集、ブランディングの強化を図る。

（3）教育改革力

- ①初年次教育の改善を図る。
- ②教育課程の見直しを行う。
- ③主体的学修への転換を図る。
- ④学修成果を把握し可視化する。
- ⑤学修成果の向上（教育の質保証）を図る。
- ⑥基礎学力、プレゼンテーション力の強化を図る。
- ⑦情報教育の在り方を検討する。

（4）学修支援力

- ①学修支援体制の整備を図る。
- ②学修環境の整備を進める。
- ③学生生活安定のための支援を行う。
- ④キャリア支援の充実を図る。
- ⑤学生の意見、要望に対応する。
- ⑥留年率の改善を図る。
- ⑦学生間のコミュニケーションの活性化を図る。
- ⑧教員採用試験対策の実施体制を拡充する。
- ⑨ネットワーク基盤・情報基盤の整備を進める。

(5) 組織マネジメント力

- ①自己点検評価のサイクルを確立し、報告書を刊行する。
- ②データ資料の管理と公開についての体制を整備する。
- ③研究活動の推進を図る。

(6) 地域貢献と情報発信力

- ①産・官との連携を強化する。
- ②地域への知的活動と施設開放等の充実を図る。
- ③生涯学修の支援を推進する。

〈盛岡大学短期大学部〉

(1) 建学の精神に基づく人間育成力

- ①DP（ディプロマ・ポリシー）・CP（カリキュラム・ポリシー）・AP（アドミッション・ポリシー）の見直しを行う。
- ②高大接続改革に取り組む。

(2) 定員充足力

- ①入学者確保の戦略を構築する。
- ②定員の適正化の検討を継続する。
- ③学生募集、ブランディングの強化を図る。

(3) 教育改革力

- ①初年次教育の改善を図る。
- ②主体的学修への転換を図る。
- ③学修成果を把握し可視化する。

(4) 組織マネジメント力

- ①自己点検評価のサイクルを確立し、報告書を刊行する。
- ②第3回認証評価受審（令和4年予定）にむけて受審体制の構築を図る。
- ③附属幼稚園再編に向けた関係性の構築を図る。

(5) 地域貢献と情報発信力

- ①広報活動の充実を図る。

- ②生涯学修の支援を推進する。

〈盛岡大学附属高等学校〉

(1) 入学者定員の安定的な確保

- ①附属高校としての魅力を中学校へ伝える。
- ②県外からの入学者を増やす。

(2) 教育課程の改善

- ①新学習指導要領に対応したカリキュラムの改善を検討・実施する。
- ②新学習指導要領に対応した評価の改善を図る。

(3) 高大連携の更なる充実

- ①高大連携進学コースの基礎固めを行い、大学との連携の強化を図る。
- ②進学コースからの盛岡大学・同短期大学部への進学者を増やす。

(4) カリキュラム・マネジメントの推進

- ①建学の精神の下、教育目標やポリシーを再確認する。
- ②新型コロナウイルス感染症等の教育環境の変化に柔軟に対応する。
- ③生徒1人1台の端末の整備、教室等のICT化の推進を図る。

(5) 教職員の資質向上

- ①働き方改革、コンプライアンスの徹底を図る。
- ②互見授業等を通して研修の啓発を図る。

(6) 生徒の安全面等環境に配慮した施設設備の改善

- ①空調設備の充実
- ②シューズロッカー室の床・ドア及び通路の修理
- ③駐車場のアスファルトの修理

〈盛岡大学附属厨川幼稚園〉

(1) 園児充足率の担保

- ①園庭開放、未就園児サークルの広告チラシを作成し、広報の強化を図る。
- ②園児募集要項を作成し、広く園児募集を行なう。
- ③未就園児サークルの活動内容を工夫し、充実を図る。
- ④大学附属幼稚園のイメージマスコットの有効活用を図る。

(2) 2歳児一時預かりの実施

- ①2歳児保育を実施し定員確保につなげる。

(3) 特別な支援を要する子どもへの柔軟な対応

- ①園務分掌に特別支援教育担当についての役割を規定する。
- ②預かり保育に在籍する特別な支援を要する子どもへの加配を行い、補助金対

象の事業とする。

- ③特別支援教育を中心に、共に育ちあう保育のあり方について研修会に参加する。
- ④短期大学部と共同開催で特別支援教育研修会を行う。

(4) 教育の質向上

- ①施設型給付への移行による、キャリア研修へ参加する。
- ②園長、教育職員各研修会等に積極的に参加する。
- ③園務分掌に教務主任についての役割を規定する。
- ④幼稚園教育要領に沿った教育課程編纂に向けた研修を行う。
- ⑤新幼稚園教育要領に基づき、園内研修を主に幼稚園教諭から小学校教諭にかかわりの意図を伝えるための円滑な幼小接続に向けた研究を進める。
- ⑥盛岡大学・短期大学部と共催で、小学校・幼稚園に向けた公開保育研究会を行う。

(5) 園運営に関わる環境整備

- ①オガールシステムを導入する。
- ②仮園舎となる松園幼稚園への園児送迎バスを確保する。
- ③仮園舎での園運営に伴う業務負担の軽減及び事務の効率化を図る。

(6) 感染症予防への対策

- ①感染症予防に必要な備品を確保し安全対策を図る。
- ②感染症予防対策にかかる研修会等へ参加する。

(7) その他

公定価格加算の対象となる事業を実施する。

〈盛岡大学附属松園幼稚園〉

(1) 園児定員確保

- ①令和4年度の幼保連携型認定こども園に向けて園児確保に努める。
 - ・未就園児サークル（3歳～）、まんまくらぶ（0才～）広報を早い時期から行い、内容の充実や安全対策を講じながら、入園につながる働きかけを行う。
 - ・インターネットを活用した広報活動に努める。

(2) 教育内容の充実・教員の資質向上

2園で過ごすことで、子どもたちの教育がより充実するよう努めるとともに、園児の保護者も安心して楽しい園生活が過ごせるよう協議し、実践していく。

- ①認定こども園の教育保育について学ぶ。
 - ・1, 2歳児の保育見学、体験など行い学ぶ。
 - ・年間教育計画について検討する。
- ②教育・研究の充実を図る。

- ・教育課程をもとに園内研修をPDC Aサイクルで行う。
 - ・園内研修で行ったことを研究収録としてまとめる。
- ③地域貢献・資源の活用
- ・地域の福祉施設との交流をすることでより自分たちの住む地域のことを知り様々な人との出会い、互いを思いあう経験を積む。
 - ・年間を通し、自然、施設など教育環境の一つとして活用する。
- ④特別支援教育
- ・月一回のケースカンファレンスを大学の専門の教員の意見を聞きながら継続して行い、子どもの育ちを見ながらよりよい関わり、環境について考え実践する。
 - ・研修会に積極的に参加し学び、実践に生かす。

(3) 短大、大学との連携

- ①養成校として実習生の指導を行い、要請に応じ大学の講義等に参加し将来の保育教諭育成一助を担う。
- ②幼稚園実習以外でも必要に応じて学生の学びの場を提供する。
- ・ゼミ学生のフィールドワーク、教員との面談、懇談等行う。
 - ・連携を取りながら行事等に学生参加を行っていき、現場での教員の仕事の様子や子ども達との関わりを見て学んでもらう。

(4) 安全・衛生対策、園舎内外の環境整備

- ①新型コロナウイルス感染症対策について、最新の情報をもって対応できるように対策本部と連携を取りながら進める。
- ②安全対策に関するマニュアルの見直しを行う。

(5) 松園幼稚園 50 周年、お別れの会

- ①幼稚園 50 周年とお別れ会を一緒にしたセレモニーを行う。
- ②記念のパンフレットを作成する。
- ③記念品を作成する。

以上

4 予算編成

(1) 基本方針等

① 令和2年10月29日開催の理事会において議決された、令和3年度予算編成方針並びに令和2年2月27日開催の理事会において策定された、学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）の行動計画に基づき、「当該年度の収入で、支出を賄う」を堅持し、もって財務比率の適正化を確立する。

② 収入については、学生数の減少により学生生徒等納付金は減少傾向が続いている。

※（ ）内は、令和2年度第3次補正予算対比（以下同様）

学生生徒等納付金 2,267,764千円（△20,000千円）

③ 支出については、令和2年7月30日開催の理事会において議決された、令和4年4月開園予定の幼保連携型認定こども園建設費及び同関連経費を盛り込みながら、収入の状況が厳しいことに鑑み、新規事業については、補助金助成金対象事業及び重要性緊急性の高いものを選択し予算措置を行った。

④ また各学校の配付予算については、学校法人盛岡大学経理規程第55条の2の規定により予算審査委員会を開催のうえ予算要求書を審査し、調整を図った。

⑤ その結果、事業活動収支については、次のとおりとなった。

基本金組入前当年度収支差額	109,927千円	(20,061千円)
基本金組入額合計	△612,367千円	(△425,160千円)
当年度収支差額	△502,440千円	(△405,099千円)
翌年度繰越収支差額	△2,419,741千円	(△443,480千円)
事業活動収入計	3,453,378千円	(21,609千円)
事業活動支出計	3,343,451千円	(1,548千円)

基本金組入前当年度収支差額は109,927千円の収入超過を計上するも、幼保連携型認定こども園建設等固定資産の取得が大きく、当年度収支差額は△502,440千円と支出超過を計上した。

⑥ その結果、令和3年度予算における事業活動収支差額比率は3.2%となり、令和元年度全国私大平均である4.7%を下回る事となった。

※事業活動収支差額比率＝基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入

(2) 第2号基本金の組入れ等

こうした中であって、令和2年3月24日開催の理事会において議決された計画にしたがって、3種類の「第2号基本金」組入れ（令和3年度組入れ額合計37,000千円）を実行し、将来の固定資産等の取得に備える。

(単位 千円)

第2号基本金組入計画等	固定資産取得予定年度	所要見込総額	令和3年度組入額
砂込校舎改築・改装資金	平成29年度 ～令和7年度	560,000	25,000
盛岡大学附属高校 施設設備整備拡充資金	令和2年度 ～令和4年度	75,000	10,000
盛岡大学学生会館 施設設備整備拡充資金	令和3年度 ～令和4年度	22,000	2,000
第2号基本金組入計		657,000	37,000

(3) 新規事業等

① 施設設備等の新設・更新等

- ・幼保連携型認定こども園建設工事 461,000 千円
- ・図書館空調設備更新工事 58,000 千円
- ・砂込校舎普通教室・特別教室エアコン設置工事 17,960 千円
- ・附属高校エアコン設置工事 20,000 千円
- ・附属高校渡り廊下屋根新設工事 3,000 千円
- ・附属高校生徒用タブレット(220台) 9,438 千円
- ・幼保連携型認定こども園用機器備品 3,500 千円

② 教育研究経費・管理経費等

- ・厨川幼稚園園舎解体工事費 57,000 千円
- ・幼保連携型認定こども園関連経費 6,060 千円
- ・大学・短大部ホームページリニューアル経費 18,000 千円
- ・大学・短大部 Web 出願システム導入経費 3,300 千円
- ・学校法人創立70周年記念事業経費 3,400 千円

(4) 予算の概要等

別紙のとおり

別紙

1 収入について

(1) 「学生生徒等納付金」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	平成30年度 決 算	令和元年度 決 算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
大学	1,865,731	1,849,815	1,848,979	1,858,819
短期大学部	232,799	212,688	201,276	176,479
附属高校	238,413	236,977	231,702	227,950
厨川幼稚園	24,438	9,815	3,688	2,734
松園幼稚園	17,084	5,084	2,119	1,782
合 計	2,378,465	2,314,379	2,287,764	2,267,764

(2) 「補助金+寄付金」(特別収入含む)の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	平成30年度 決 算	令和元年度 決 算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
大学	182,633	168,162	307,611	298,544
短期大学部	44,248	38,840	59,445	56,463
附属高校	176,868	140,672	160,713	153,179
厨川幼稚園	21,939	72,363	82,386	212,765
松園幼稚園	18,145	52,689	57,569	52,490
合 計	443,833	472,726	667,724	773,441

(3) 法人全体の「事業活動収入計」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

法人全体	平成30年度 決 算	令和元年度 決 算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
事業活動収入計	3,383,797	3,209,604	3,431,769	3,453,378

2 支出について

(1) 「人件費」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	平成30年度 決 算	令和元年度 決 算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
大学	1,229,668	1,164,476	1,270,574	1,261,438
短期大学部	228,426	189,344	207,590	217,241
附属高校	324,518	305,166	281,764	278,626
厨川幼稚園	45,639	58,752	57,509	65,351
松園幼稚園	37,577	47,579	54,532	54,354
学校法人	43,998	49,567	45,342	50,655
合 計	1,909,826	1,814,884	1,917,311	1,927,665

(2) 「教育研究経費」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	平成30年度 決 算	令和元年度 決 算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
大学	478,596	499,227	792,195	685,678
短期大学部	89,927	85,722	126,871	105,288
附属高校	151,499	109,482	116,235	118,278
厨川幼稚園	12,955	12,871	15,460	86,402
松園幼稚園	13,375	12,601	13,959	13,272
合 計	746,352	719,903	1,064,720	1,008,918

(3) 「事業活動支出計」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

法人全体	平成30年度 決 算	令和元年度 決 算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
事業活動支出計	2,981,324	2,888,961	3,341,903	3,343,451

3 「当年度収支差額」等の推移について

(単位 千円)

法人全体	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
当年度 収支差額	279,327	218,788	△97,341	△502,440
翌年度繰越 収支差額	△2,118,178	△1,896,182	△1,976,261	△2,419,741

4 「基本金組入額」の推移について

(単位 千円)

法人全体	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
基本金組入額	△123,146	△101,856	△187,207	△612,367

5 主な財務比率の推移について

(単位 %)

法人全体	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 第3次補正予算	令和3年度 当初予算
人件費比率	56.7	56.7	56.2	58.3
教育研究経費 比率	22.2	22.5	31.2	30.5
事業活動収支 差額比率	11.9	10.0	2.6	3.2

人件費比率	= 人件費／経常収入	令和元年度全国私大平均	53.2%
教育研究経費比率	= 教育研究経費／経常収入	令和元年度全国私大平均	33.5%
事業活動収支差額比率	= 基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	令和元年度全国私大平均	4.7%
経常収入	= 教育活動収入＋教育活動外収入		

6 部門別収支差額等について

(単位 千円)

部 門	事業活動収入	事業活動支出	基本金組入額	当年度収支差額
文学部	1,978,746	1,710,235	△91,208	177,303
栄養科学部	435,761	458,419	△21,491	△44,149
短期大学部	292,047	360,011	△9,754	△77,718
附属高校	452,062	490,814	△23,000	△61,752
厨川幼稚園	223,359	156,222	△466,168	△399,031
松園幼稚園	58,919	70,775	△610	△12,466
法人 (含予備費)	12,484	96,975	△136	△84,627
合 計	3,453,378	3,343,451	△612,367	△502,440